

## 今回のお知らせ

- 新潟県原子力防災訓練への参加
- 新潟県内各地で実施している広聴・広報活動
- 年末のご挨拶

## 新潟県原子力防災訓練への参加

2019年11月8日・9日、新潟県が開催した原子力防災訓練に参加いたしました。

訓練には、県内30市町村や内閣府、自衛隊、原子力規制庁など約55機関や住民の皆さまが参加し、柏崎刈羽原子力発電所の重大事故を想定して、情報伝達や、広域避難・屋内退避、スクリーニングなどの訓練が行われました。

当社からは約150名の社員が参加し、発電所から自治体の皆さまへの通報連絡や、当社福祉車両による要配慮者の避難支援などの訓練を実施しました。

### 訓練項目（当社参加分）

	訓練項目	当社実施内容
本部運営訓練等	新潟県災害対策本部等における運営訓練	新潟県災害対策本部等への発電所情報等の伝達
	現地災害対策本部における運営訓練	柏崎刈羽原子力防災センターへの発電所情報等の伝達
	緊急時の通信連絡訓練	自治体等関係箇所への通報連絡文のFAX
	緊急時のモニタリング訓練	UPZ*内の放射線モニタリング
	道路啓開等関係機関による個別訓練	消防と連携し、柏崎刈羽原子力発電所内での傷病者を救急車で搬送
住民避難訓練等	PAZ*内の要配慮者搬送訓練	PAZ内の社会福祉施設における、当社福祉車両による要配慮者の避難支援
	PAZ 内住民の避難訓練	広域避難時の避難経由所における自治体支援
	スクリーニング*・簡易除染訓練	UPZ内の住民および避難車両のスクリーニング

※PAZ：原子力発電所から概ね半径5km圏内 UPZ：PAZの外側の概ね半径30km圏内 スクリーニング：汚染状況を確認する検査



発電所情報等の伝達  
(柏崎刈羽原子力防災センター)



発電所情報等の伝達  
(新潟県災害対策本部)



当社福祉車両による避難支援

当社ホームページより、訓練当日の動画映像をご覧ください。



当社は、原子力発電所の安全性向上に取り組むとともに、  
万一に備えて、原子力防災の取り組みを充実させてまいります。

## 新潟県内各地で実施している広聴・広報活動

新潟県内各地で開設しているコミュニケーションブースでは、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策などをVR(バーチャル・リアリティ)を活用した臨場感のある映像でわかりやすく説明しているほか、ご来場いただいた皆さまのさまざまなご不安や疑問にお答えしております。

コミュニケーションブースはこれまで63回\*開設し、14,000名以上の方々にご来場いただいております。今後もより多くの地域で開設する予定です。

コミュニケーションブースの開設情報は、当社ホームページ等で逐次お知らせしてまいります。多くの方々のご来訪をお待ちしております。

※2019年12月8日時点



### コミュニケーションブースで ご紹介しているおもな内容

- 福島第一原子力発電所事故の概要
- 事故の反省をふまえた  
柏崎刈羽原子力発電所の安全対策
- 新規制基準への審査の対応状況
- 世界や日本のエネルギー事情
- さまざまな発電方法のメカニズム など



### コミュニケーションブースでいただいた声

声の分類	内容
エネルギー事情・ 原子力発電全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原子力発電を怖がるだけでなく、日本の将来のことを考える必要がある。</li> <li>● 日本のエネルギー事情を踏まえ、様々な発電方法で万全を期しているのだと思った。自然の力を利用できれば、最善。原子力を活用するのであれば、1000年に一度の津波にも耐えるものを考えないといけない。</li> <li>● 国も含めて原子力以外のクリーンなエネルギーを是非考えてほしい。</li> </ul>
安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 福島第一原子力発電所事故の反省をしっかりと、安全最優先で取り組んで欲しい。</li> <li>● 以前、発電所を見に行った事があるが、VR映像を見せてもらい、だいぶ様子が変わったことが分かった。</li> <li>● 怖いといった気持ちは、説明を聞いて少し薄らいだ。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● イベントを通じ、よく知ってもらおうという姿勢が伝わったし、面白かった。</li> <li>● 首都圏の方に電源立地のことをよく説明してほしい。</li> <li>● 尾瀬コーナーに興味があった、尾瀬自然保護は大切な事、パンフレットが参考になった。</li> </ul>

## 年末のご挨拶

新潟本社代表に就任して2年半が過ぎようとしております。この間、新潟県の皆さまに温かく支えていただきまして、心より御礼申し上げます。私自身、県民の皆さまの想いに誠心誠意お応えし、より一層地域に根差した企業となるべく取り組んでまいりました。

そのようななかで、6月に発生した山形県沖地震での通報連絡用紙の記載誤りなどにより、皆さまに大変なご心配をおかけしましたことを、改めてお詫び申し上げます。同じ過ちを繰り返さないために、再発防止対策を徹底してまいります。

11月には、柏崎刈羽原子力発電所1～5号機の廃炉計画要請に対する当社の考え方について、櫻井柏崎市長より、おおむね「了」との評価をいただきました。回答した内容を経営として責任をもって取り組むとともに、いただいたご要請についてしっかりと検討を進めてまいります。

来年は、新潟本社行動計画「まもる・そなえる・こたえる」をシンカ(進化・深化)させる年にしたいと考えております。柏崎刈羽原子力発電所の安全性向上はもとより、原子力防災支援の取り組みも強化してまいります。また、来年の干支の子(ネズミ)のように県内を活発に動き回り、当社の取り組みを積極的に発信するとともに、皆さまの『声』を真摯に受けとめ、その『声』にお応えしたいと考えております。

引き続き、新潟県の皆さまのことを第一に考えて、新潟本社の取り組みを進めてまいりますので、令和2年も変わらぬご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

良いお年を迎えられますよう心よりお祈りしております。



新潟本社代表  
橋田 昌哉  
(きった まさや)